

少子高齢化時代の医療・介護福祉の現状や今後に向けての取り組み



令和4年4月22

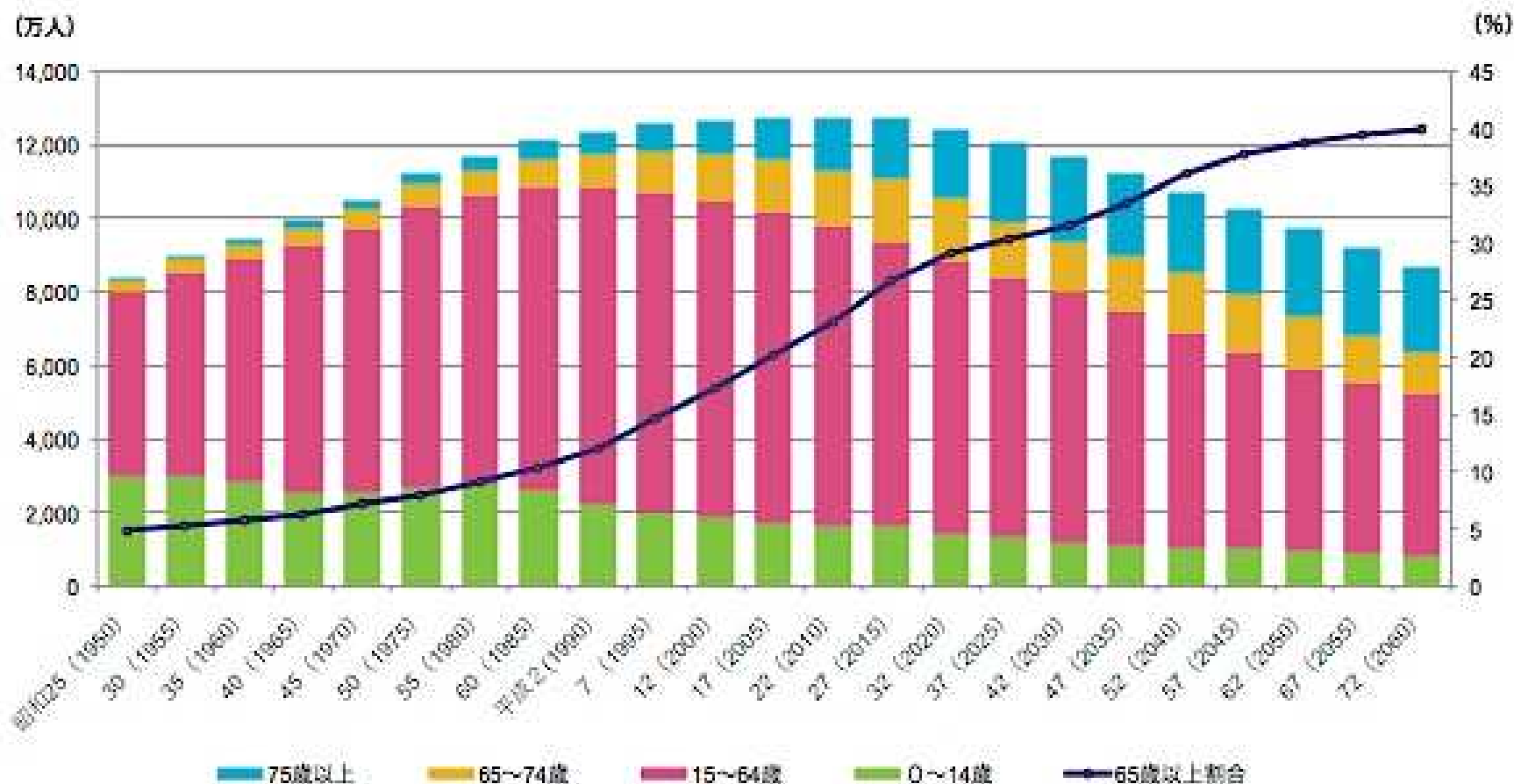
日 特定非営利活動法人 但馬を結んで育つ会 代表理事

ちば内科・脳神経内科クリニック

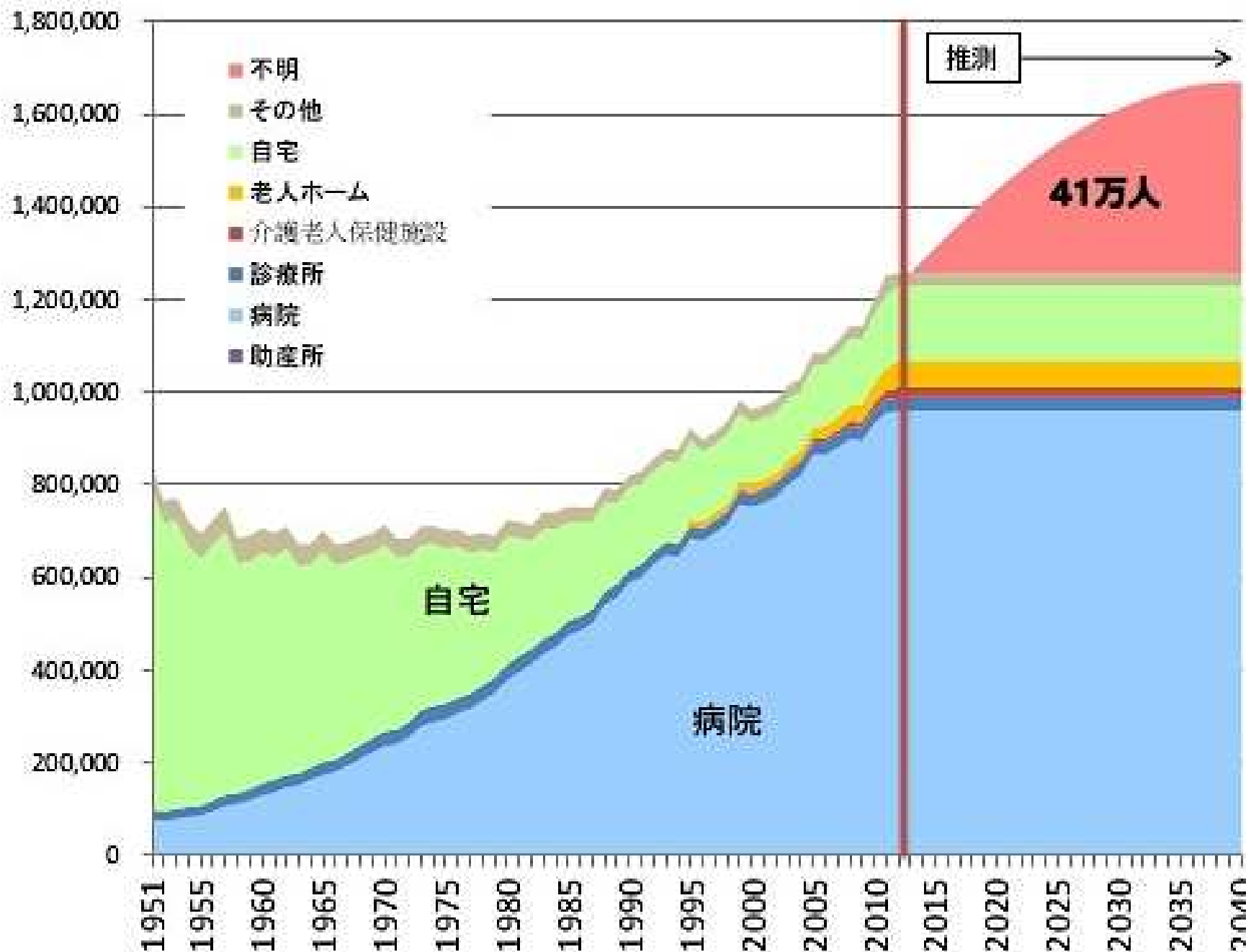
院長

千葉

高齢化の推移と将来推計

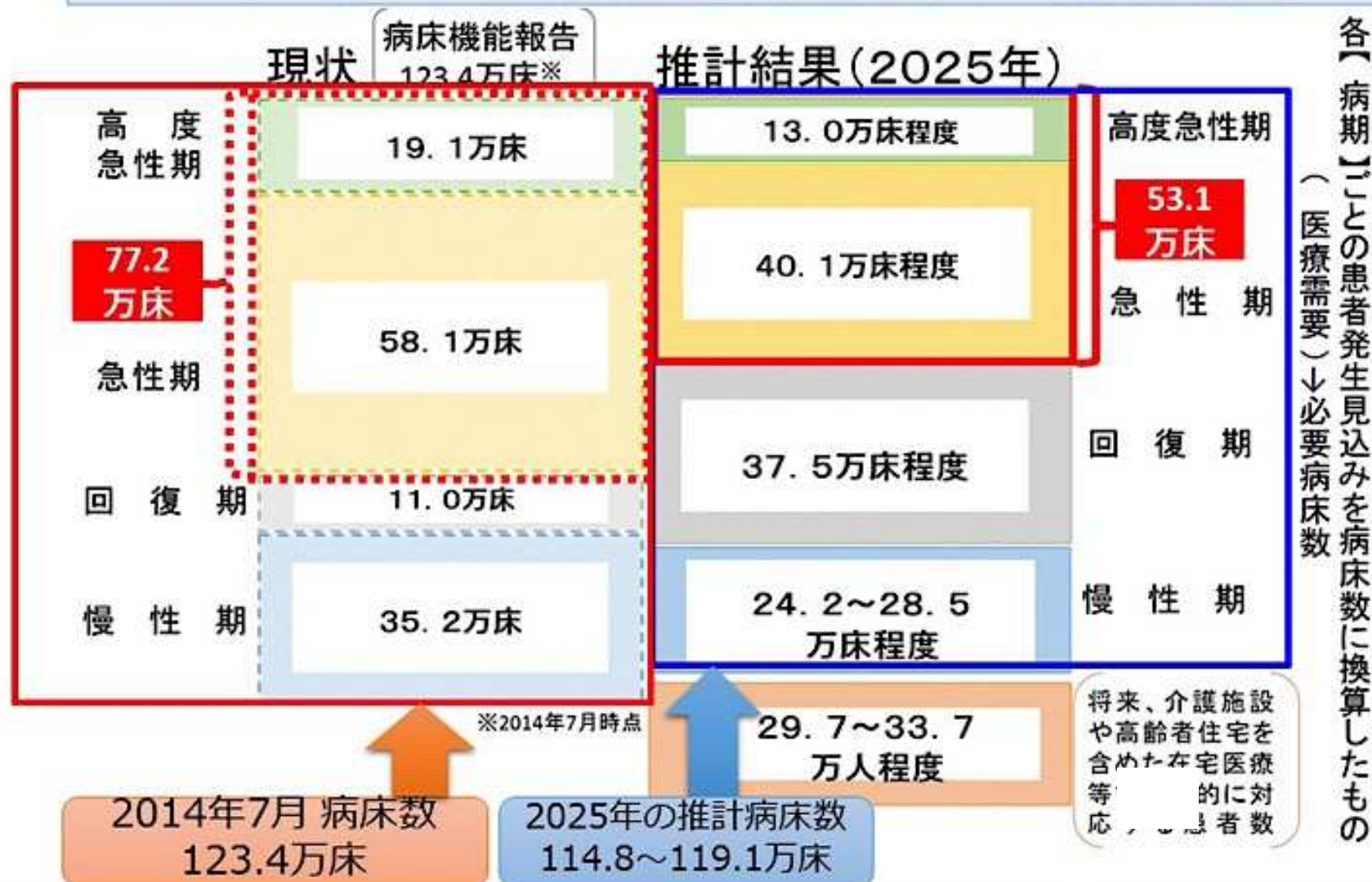


資料: 2010年までは総務省「国勢調査」、2015年は総務省「人口推計(平成27年国勢調査人口速報集計による人口を基準とした平成27年10月1日現在確定値)」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果



(資料)厚労省「人口動態推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(H24年推計)出生中位死亡中位推計」

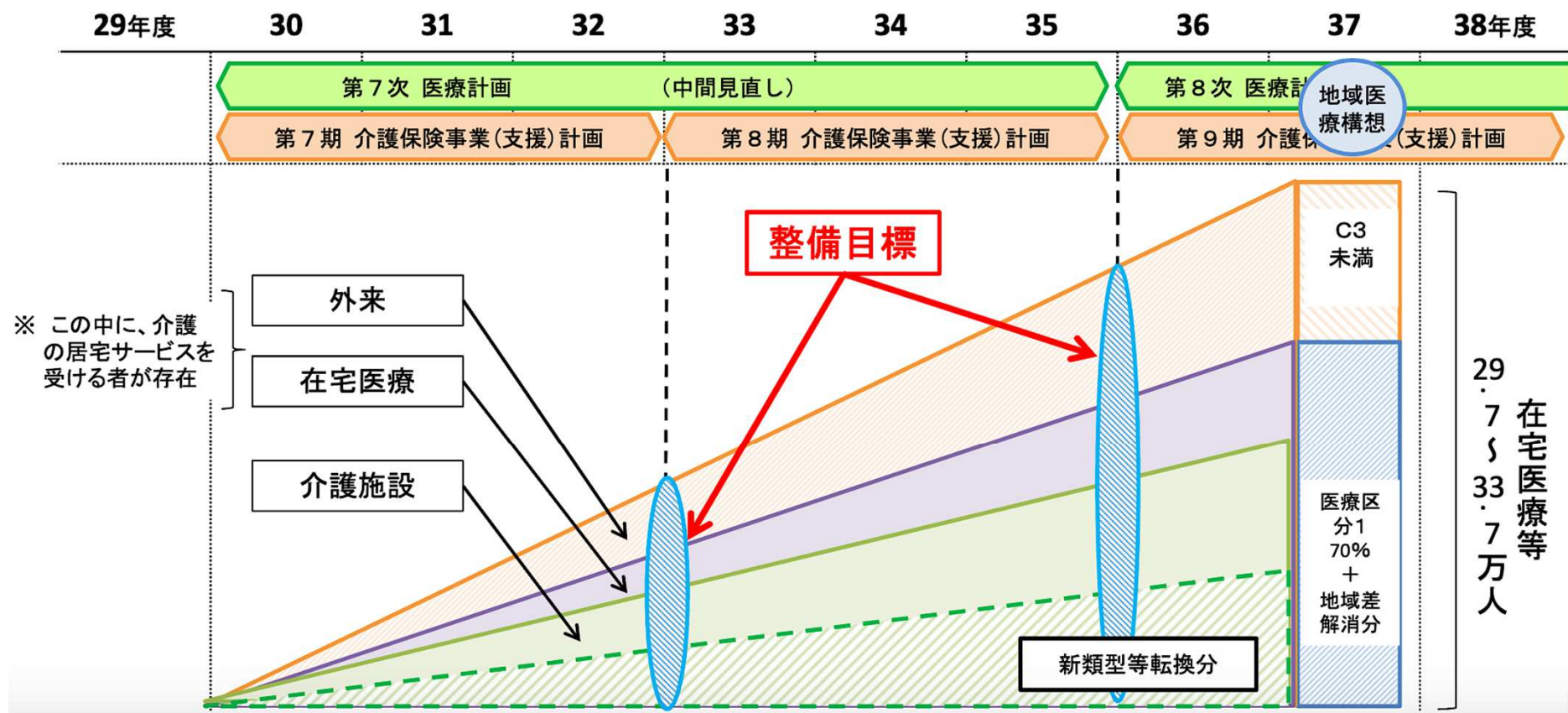
2025年の医療機能別必要病床数の推計結果



厚労省は2025年の医療機能別病床数の推計として、**4.3~8.6万床**の削減を予想している。

次期医療計画と介護保険事業計画の整備量等の関係について

- 在宅医療等の新たなサービス必要量は、2025年に向けて、約30万人程度となると推計。
- これらの受け皿としては、療養病床の転換等による在宅医療、介護施設の整備の他、一般病床から在宅医療等に対応するものについては、外来医療等に対応することが考えられる。
- 対応にあたっては、それぞれの提供体制の整備主体が協議し、医療計画及び介護保険事業計画の計画期間に応じた、統合的な整備目標・見込み量を立てる必要がある。



公立・公的424病院「再編検討を」

厚労省リスト公表 '19.9.26

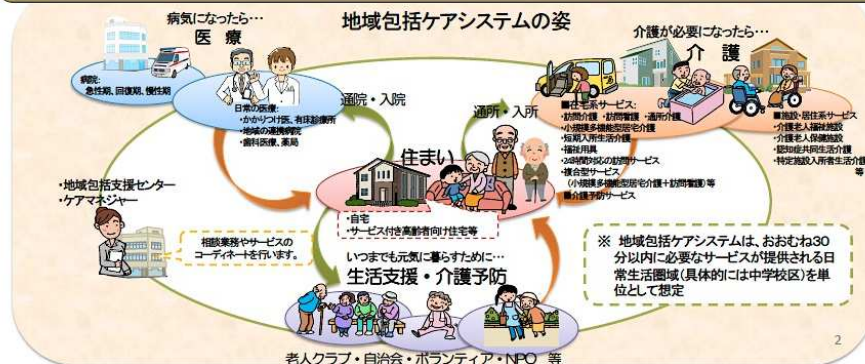
- 厚生労働省は26日、市町村などが運営する公立病院と日赤などが運営する公的病院の25%超にあたる全国424病院について「再編統合について特に議論が必要」とする分析をまとめ、病院名を公表。
- 診療実績が少なく、非効率な医療、ベッド数や診療機能縮小なども含む再編を地域で検討、2020年9月までに対応策決定を求める。
- 全国1652の公立・公的病院(2017年度)のうち、人口100万人以上区域の病院を除いた1455病院の診療実績をもとに分析。
- がんや救急など高度医療診療実績が少ない病院、機能代替できる近隣民間病院がある病院について「再編統合について特に議論が必要」と位置づけ
- **424病院の内訳は公立が257、公的が167**
- 今後、厚労省は各都道府県に対し、**20年9月末までに対応方針決定を求める**。他病院への統合、病床数の削減、診療機能の縮小などを**25年までに終える**よう要請。
- 罰則規定や強制力はなく、権限は各地域に委ねられる。改革が進むかは不透明。
- 政府は25年度をターゲットに、「急性期」病床を減らす「地域医療構想」を進めている。
- 各地域が医療計画で示した急性期病床の削減率は公立病院全体で**5%に停滞**。厚労省は縮小する余地のある過剰な医療実態を明らかにするため、この春から分析を進めていた。

地域包括ケアシステム



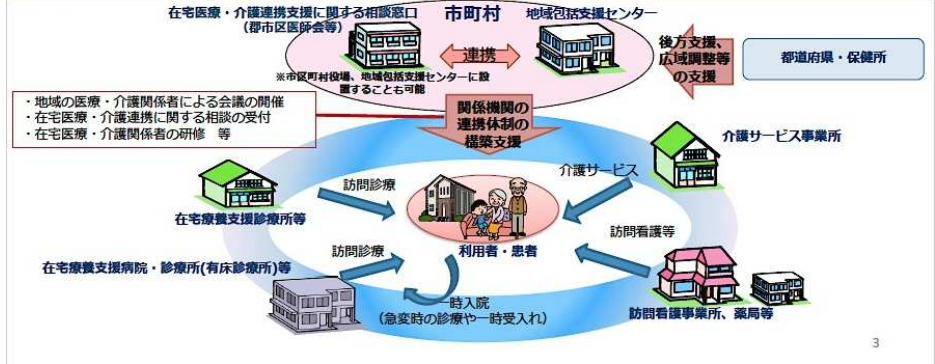
地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差。
- 地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。



在宅医療・介護連携の推進

- 医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関(※)が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供することが重要。
(※)在宅療養を支える関係機関の例
 - ・診療所・在宅療養支援診療所・歯科診療所等 (定期的な訪問診療等の実施)
 - ・病院・在宅療養支援病院・診療所(有床診療所)等 (急変時の診療・一時的な入院の受入れの実施)
 - ・訪問看護事業所、薬局 (医療機関と連携し、服薬管理や点滴・褥瘡処置等の医療処置、看取りケアの実施等)
 - ・介護サービス事業所 (入浴、排せつ、食事等の介護の実施)
- このため、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するため、都道府県・保健所の支援の下、市区町村が中心となつて、地域の医師会等と緊密に連携しながら、地域の関係機関の連携体制の構築を推進する。



(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援

情報共有の手順等を含めた情報共有ツールを整備し、地域の医療・介護関係者間の情報共有の支援を行う。

※情報共有ツール:情報共有を目的として使用される、情報共有シート、連絡帳、地域連携クリティカルパス等

ポイント

- 既存の情報共有ツールの改善や、情報共有ツールを新たに作成する場合は、医療・介護関係者の双方が利用しやすい様式等になるよう考慮する。

実施内容・方法

- 1. 情報共有ツールの作成**
 - (1) 地域における既存の情報共有ツールとその活用状況を把握し、その改善等や新たな情報共有ツール作成の必要性について、関係する医療機関や介護サービス事業者の代表、情報共有の有識者等からなるWGを設置して検討(※地域の実情に応じて、既存の情報共有ツールの改善でも可)。
 - (2) 作成又は改善を行う場合、WGにおいて、情報共有の方法(連絡帳、連絡シート、地域連携クリティカルパス、ファックス、電子メール等)や内容等を検討し、情報共有ツールの様式、使用方法、活用・手順等を定めた手引き(利用者の個人情報の取り扱いを含む)等を策定。
※ 実際に情報共有ツールを使用する地域の医療・介護関係者等の意見を十分に踏まえること。
- 2. 情報共有ツールの導入支援と活用状況の把握**
 - (1) 地域の医療・介護関係者を対象に、使用方法の説明等、情報共有ツールの導入を支援するための研修会を開催や、情報共有ツールの使用方法や情報共有の手順等を定めた手引き等を配布。
 - (2) アンケート調査、ヒアリング等によって、情報共有ツールの活用状況とその効果、うまく活用できた事例やできなかった事例等について把握し、改善すべき点がないかなどについて検討。
 - (3) 必要に応じて、情報共有ツールの内容や手引き等を改定し、関係者に対し、十分周知。

留意事項

- 職員の交代時期を考慮し、例えば、定期的に医療機関等や介護事業所で実際に従事する職員に対して手引きを周知するよう配慮する。

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

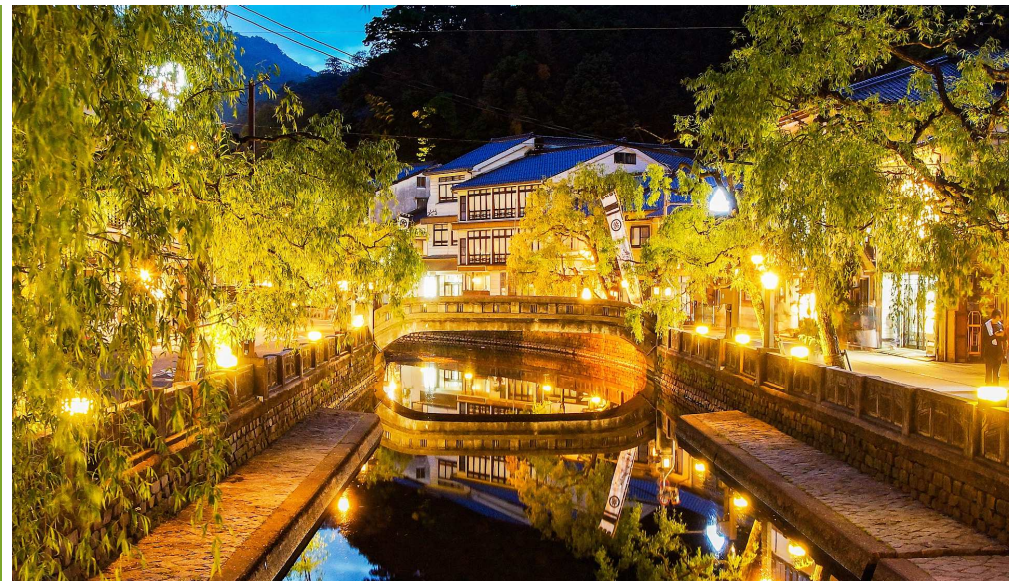
同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について協議する。

実施内容・方法

- (1) 隣接する市区町村の関係部局、病院関係者、医師会及び介護支援専門員協会等の医療・介護の関係団体、都道府県関係部局、保健所等が参加する会議を開催し、広域連携が必要となる事項について、検討する。
- (2) 検討事項に応じて、当該検討事項に係る関係者の参画する会議の開催を検討する。
- (3) 例えば、情報共有の方法について検討する場合は、都道府県や保健所の担当者の支援のもと、各市区町村の担当者や、医療・介護関係者が集まり、情報共有に関する具体的な方法や様式の統一等について検討する。
- (4) 統一された情報共有の方法や様式等を、連携する市区町村の地域の医療・介護関係者に周知する。

留意事項

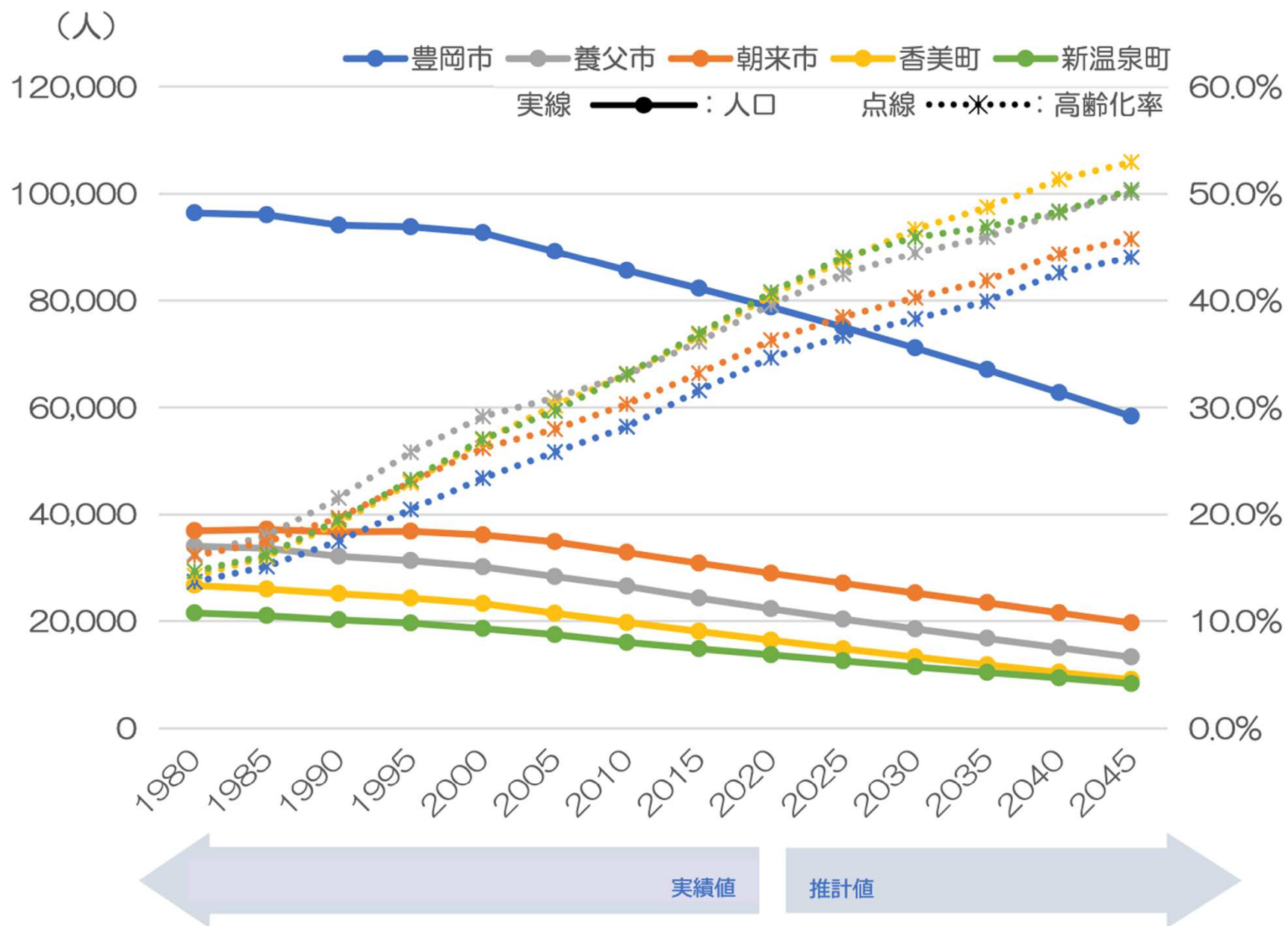
市区町村が、当該市区町村の境界を越えて取組を実施するためには、都道府県、都道府県医師会等との協力が不可欠である。特に病院への協力依頼等は、都道府県が支援することが望ましい。また、都道府県等の協力においては、特に医療との接点が多い保健所の協力を得ることも考慮する。



2019年 住みたい田舎ベストランキング 近畿エリア

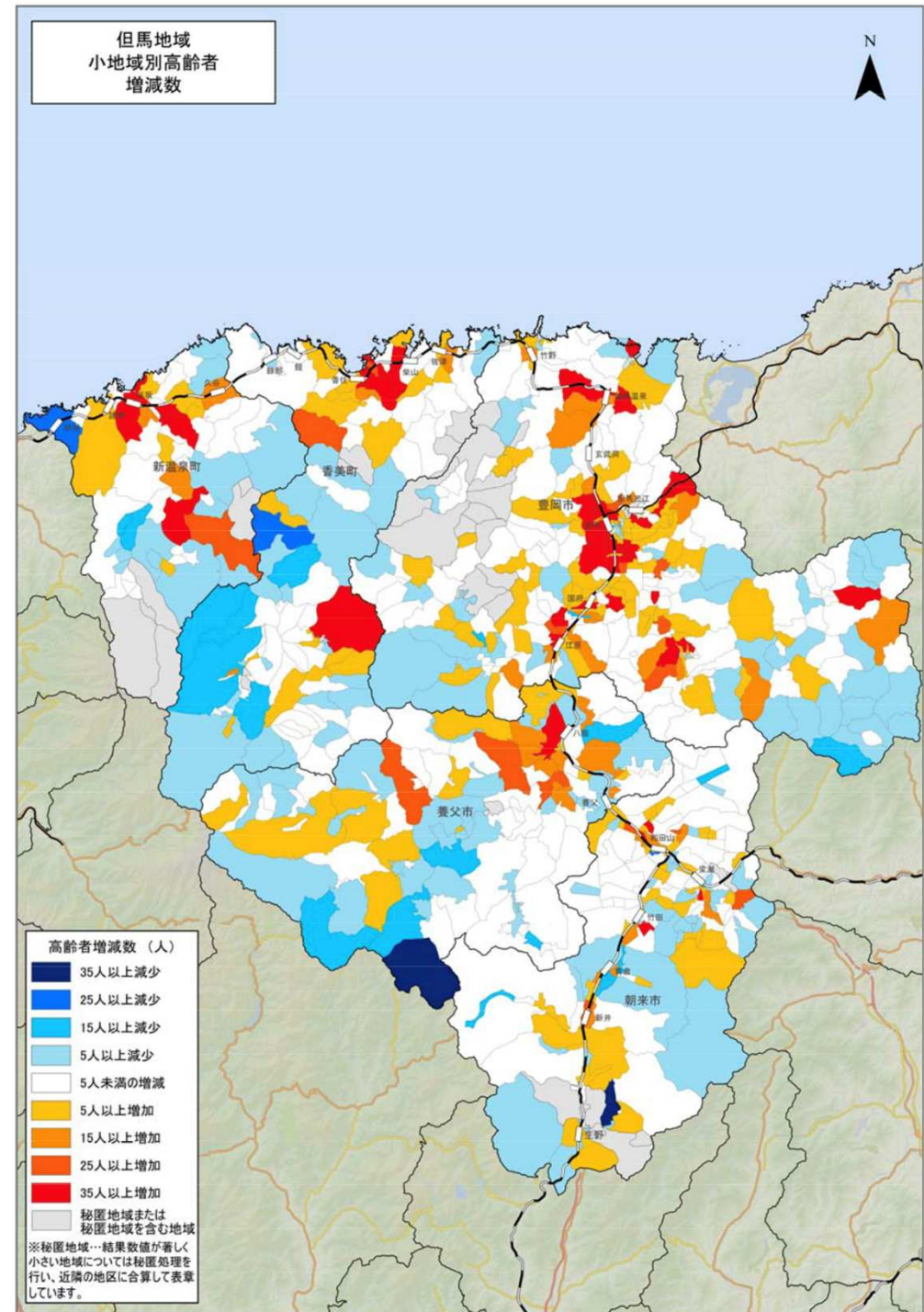
- 1位：養父市
- 2位：朝来市
- 3位：豊岡市
- 4位：香美町
- 7位：新温泉町

宝島社

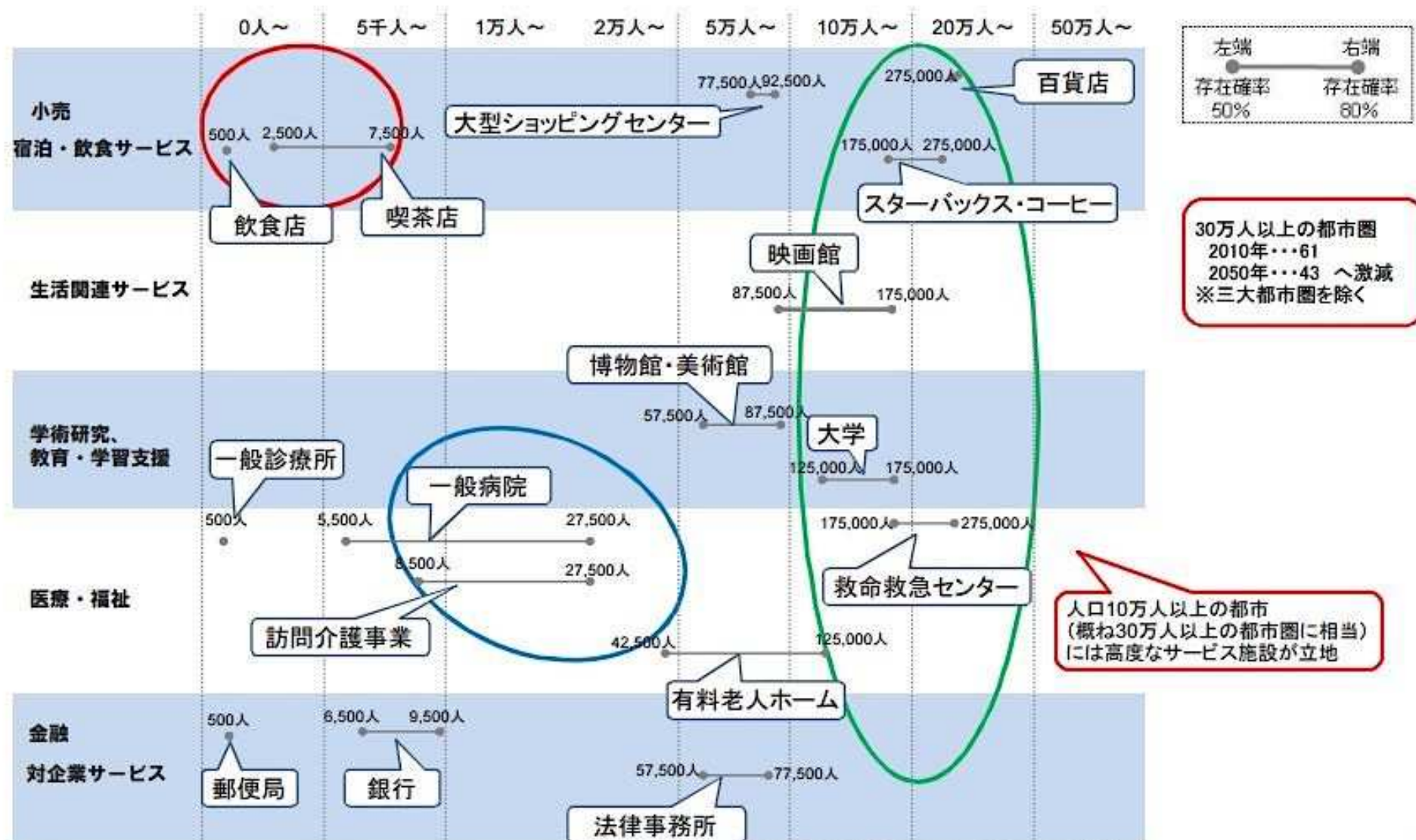


【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(地域経済分析システム(RESAS)より)

但馬地域高齢者増減数

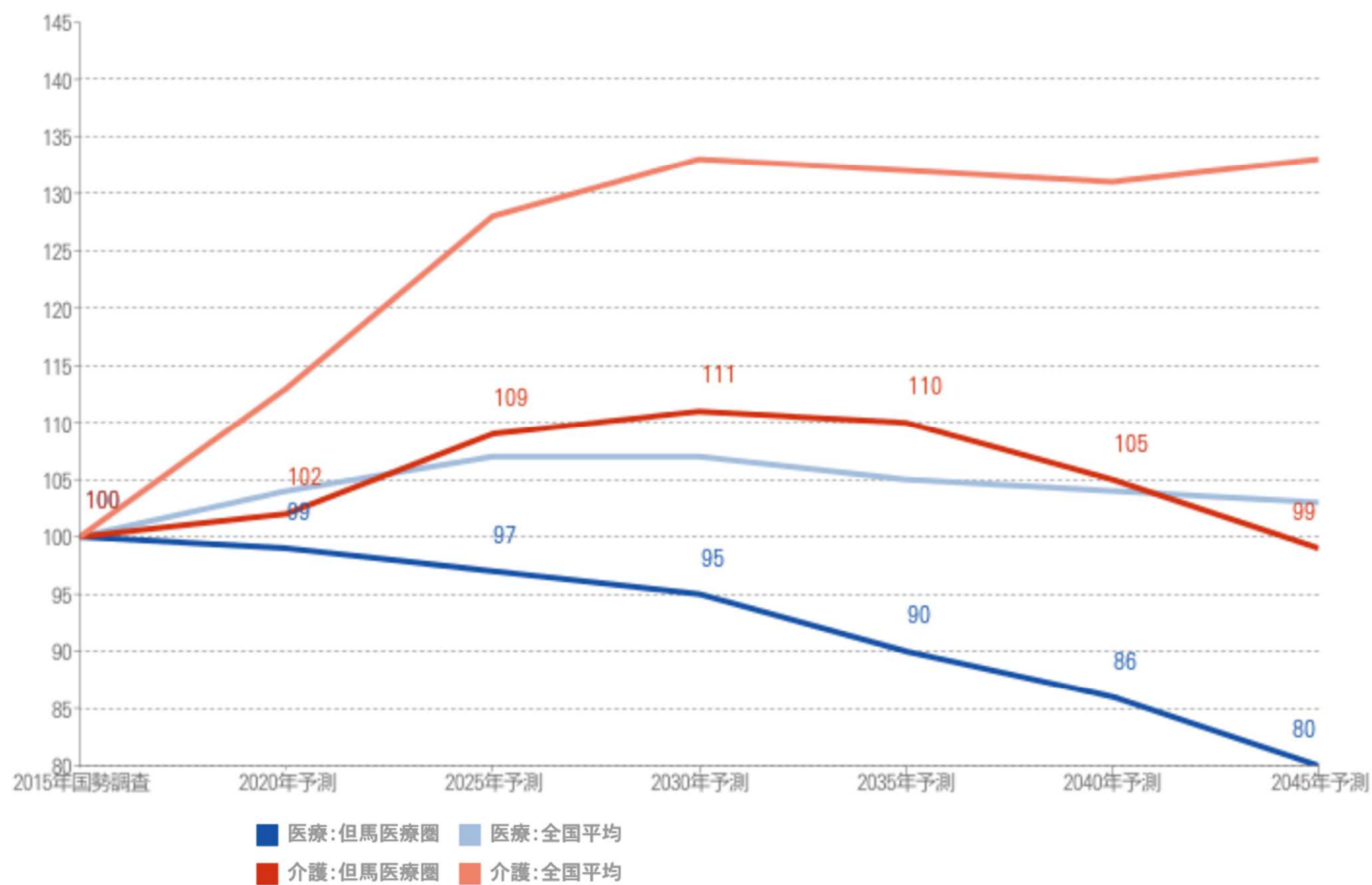


サービス施設の立地する確率が50%及び80%となる自治体の人口規模 (三大都市圏を除く)



(出典) 各種資料をもとに国土交通省国土政策局作成

❖ 医療介護需要予測指数(2015年実績=100)





精神疾患

透析

急性期医療

回復期・
慢性期医療

福祉



診療科目：内科 脳神経内科 脳神経外科 兵庫県豊岡市九日市下町5-1

☎ 0796-22-7000

📱 オンライン診療

📱 オンライン予約

・HOME ・院長紹介 ・診療内容 ・クリニック紹介 ・初めての方へ ・アクセス

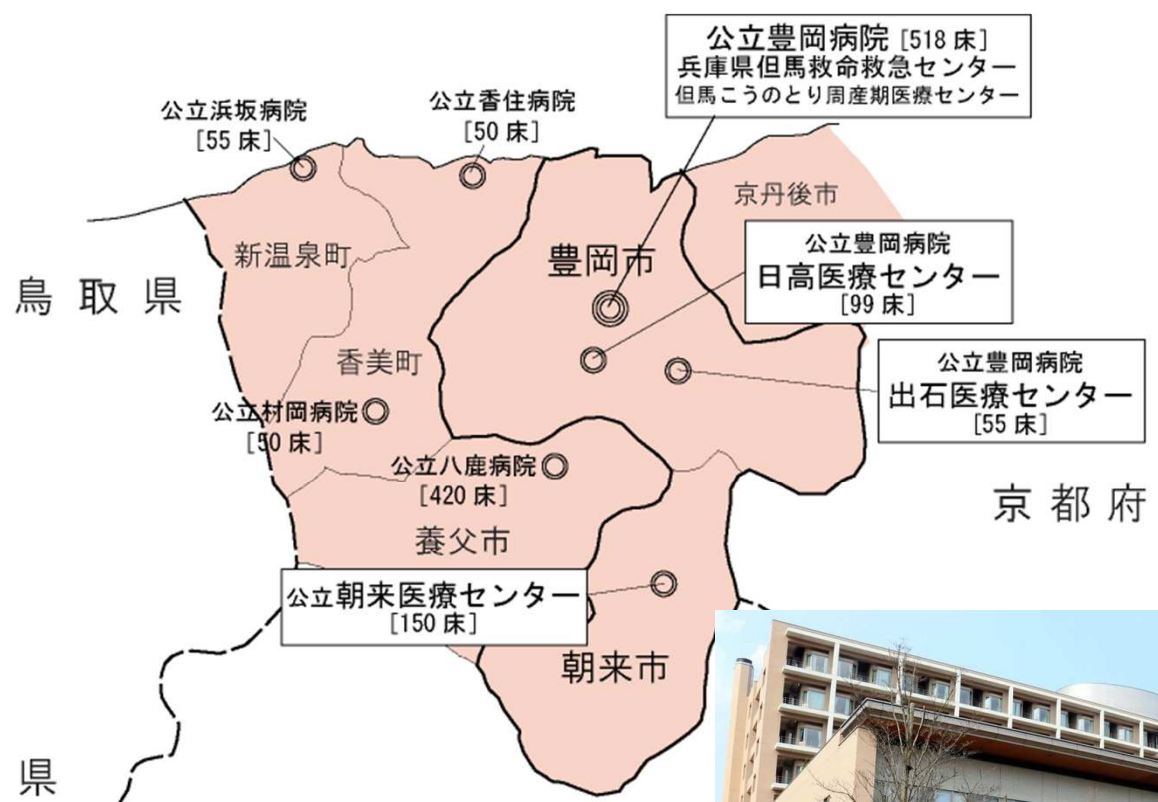


Ingenia
Prodiva 1.5T



5月10日

豊岡市



灘

大阪湾

	A 診療実績が特に少ない									A	B 類似かつ近接						B	
	がん	心筋梗塞等の心血管疾患	脳卒中	救急医療	小児医療	周産期医療	災害医療	へき地医療	研修・派遣機能	該当数	がん	心筋梗塞等の心血管疾患	脳卒中	救急医療	小児医療	周産期医療	該当数	再検証要請対象医療機関(●)
公立豊岡病院組合立豊岡病院										0							0	
公立豊岡病院組合立豊岡病院出石医療センター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	●	●	●	●	●	●	6	●
公立香住病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	●	●	●		●	●	5	●
公立八鹿病院		●		●	●	●				4		●	●		●		3	
公立豊岡病院組合立朝来医療センター		●		●	●	●	●	●	●	7		●	●		●	●	4	
公立豊岡病院組合立豊岡病院日高医療センター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	●	●	●	●	●	●	6	●
公立村岡病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	●	●	●		●	●	5	●

Aの●は「診療実績が特に少ない」 Bの●は「類似かつ近接する」ことを示す。
A全てもしくはB全てに該当する医療機関を「再検証要請対象」とする。

第24回地域医療構想に関するワーキンググループ参考資料1-2より作成

兵庫県二次医療圏計画



＜庄内二次医療圏＞

＜人口＞ 279,506人(2015年10月)
 酒田市 106,267人 鶴岡市 129,630人
 遊佐町 14,212人 庄内町 21,669人
 三川町 7,728人

＜救急告示病院＞

3次救急医療機関:

* 日本海総合病院(646床)27科

2次救急医療機関:

* 鶴岡市立荘内病院(520床)24科

* 鶴岡協立病院(201床)

* 本間病院(154床)

* 山形愛心会庄内余目病院(324床)23科

【高齢化率(2015年10月)】

全国 20.7%

山形県 30.0%

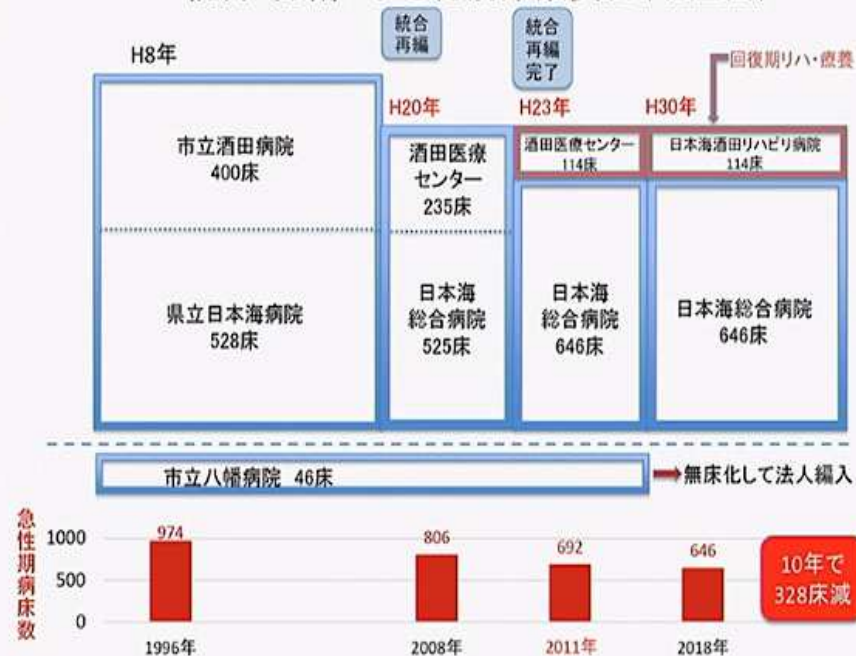
庄内地方 30.8%

【出生率】

庄内地方6.4%



統合・再編による総病床数変化(北庄内)



現在の病院の姿＝完全な機能分担



＜日本海総合病院＞急性期型

病床数528→630床(うち感染病床4)106床増

* ICU, HCUを含み14病棟、ヘリポート、救命救急センター、PET-CT、LDR病床、市消防救急ワークステーション

診療科 27科

職員数 998人

経常収益(H30) 約 206 億円

DPC特定病院群(H30.4～)。シャトルバス運行



＜酒田リハビリテーション病院＞慢性期型

(旧酒田医療センター)

病床数(一般400床)→114床(療養、回復期)

* 療養期1病棟(35床)、回復期2病棟(79床)、デイケア、回復期リハ

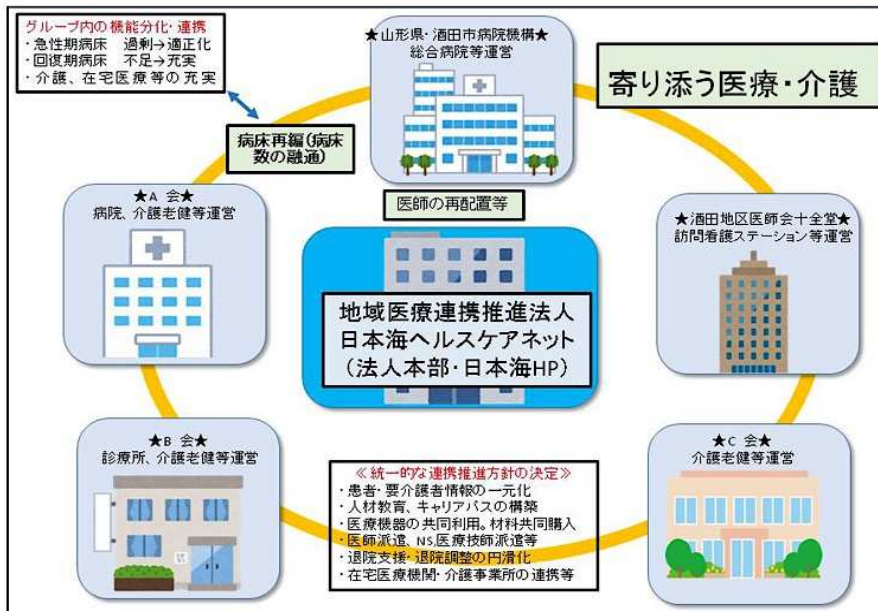
* 訪問看護ステーションスワン。在宅医療・介護連携支援室ポインテ

診療科 2科

職員数 114人

経常収益(H30) 約 12.5 億円

連携法人日本海ヘルスケアネット(仮称)設立イメージ



患者さんが指定した 医療・介護施設でのみ 診療情報を共有します。



二次検診や生活習慣病
予防のために、健康診断
の結果を提供します。

検診センター



受診医療施設が変わっ
ても継続した治療を受
けることができ、重複し
た薬や検査を防ぐこと
ができます。

診療所



歯科診療所



電子カルテシステムなど

診療情報開示病院は、
主に診療所などが閲覧
するために、既存診療
情報を提供します。

診療情報開示病院

医療情報ネットワーク

ちようがいネット

データセンター・認証局

情報開示病院が公開した診療情報は、
情報の安全性を確保するため暗号化され、
個人情報漏れることはありません。

「ちようがいネット」は、庄内地域の医療・介護施設が
万全なセキュリティで保護されたインターネット回線により
診療情報を共有するシステムです。
患者さんの同意のもと
病院、かかりつけ医、健診施設、在宅ケア、介護事業所が
一体となり、切れ目のない連携した医療・介護福祉サービス
を受けられるようになります。
地域医療施設全体で住民の健康をサポートし、
安心して暮らせる社会を実現します。



訪問看護
ステーション

ノートのように書き込め
る機能があり、訪問看護
の際など出先での診療
メモとして役立ちます。



介護事業所

治療内容を共有する
ことで、より安全で安
心な介護サービスを提供
します。



薬局

投薬の重複が
なくなります。

※情報開示施設

- 日本海総合病院 ●日本海酒田リハビリテーション病院 ●健友会 本間病院
- のぞみ診療所 ●高見台クリニック ●鶴岡市立荘内病院
- Net4U(鶴岡地区医師会) ●徳洲会 庄内余目病院 ●山形県立中央病院
- やまがた健康推進機構 庄内検診センター(酒田市・遊佐町・庄内町 国保のみ)

個人情報保護対策

1 情報の暗号化

個人情報保護のため、
高度な暗号化処理を
します。

2 端末の特定

閲覧を認証された端末
以外は、ネットワークに
接続できません。

3 閲覧の記録

いつ、だれが、どこで、どの
情報を見たかを記録で
確認できます。

4 医療・介護従事者の責務

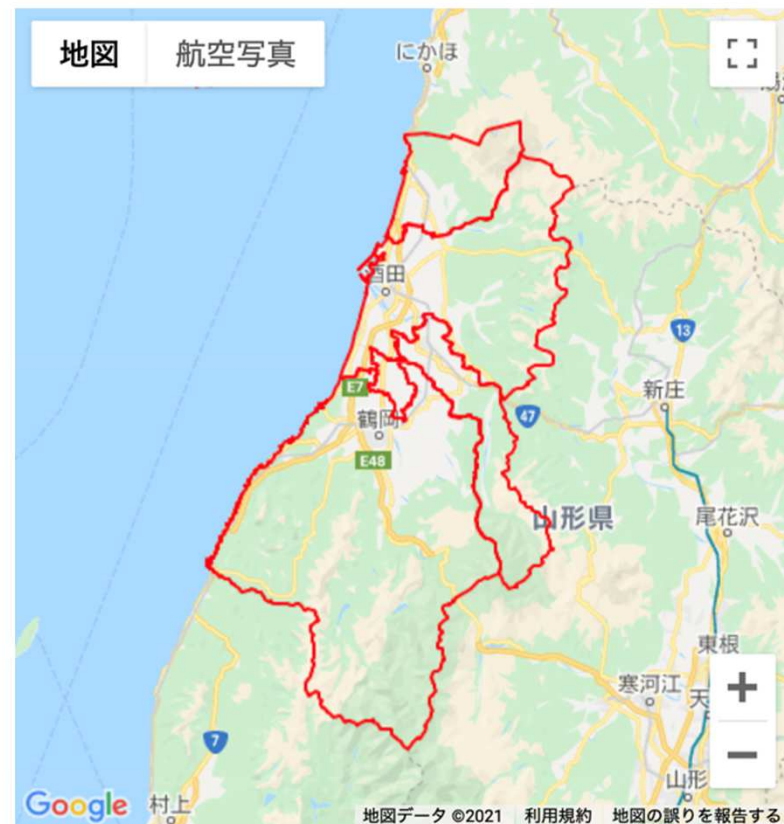
医療・介護従事者が守秘
義務に違反した場合、
罰則が科せられます。

兵庫県 但馬医療圏



面積	2,133	km ²
人口 (2015)	170,232	人
人口増減率 (2010～2015)	- 5.74	%
高齢化率	33.6	%

山形県 庄内医療圏



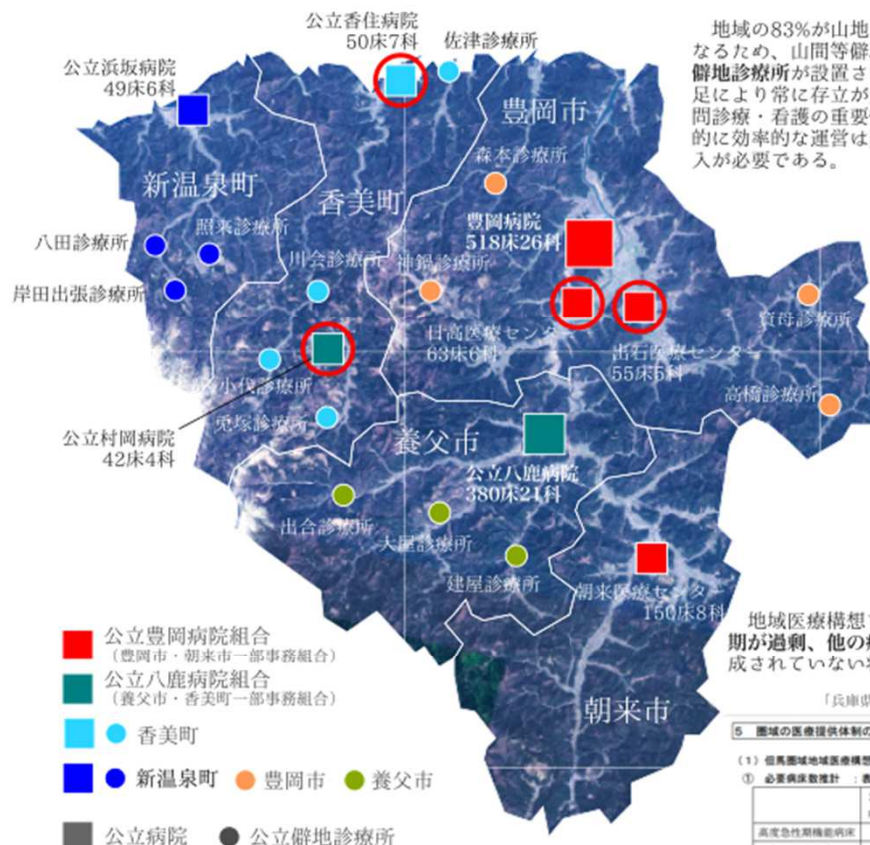
面積	2,405	km ²
人口 (2015)	279,497	人
人口増減率 (2010～2015)	- 4.98	%
高齢化率	32.7	%

JMAP (日本医師会)

兵庫県 但馬地域

豊岡市・養父市・朝来市・香美町・新温泉町
人口 156,930人 R02.12.01兵庫県推計

当地の入院医療の殆どを公立病院が担っているが、8つの病院のうち4つが豊岡市と朝来市で構成する公立豊岡病院組合、2つが養父市と香美町（一部）で構成する公立八鹿病院組合、2つが町立病院となっており、設置主体が複雑に入り組んでいる。
地域の高度急性期病院である豊岡病院（518床）が実質上地域基幹医療機関となっており、八鹿病院（380床）もそれに準ずる規模を有しており、県立病院も存在しないため、地域の医療政策をリードするべき機関が存在しない。



地域の83%が山地であり、冬季は豪雪となるため、山間等僻地医療確保のため市立僻地診療所が設置されているが、後継者不足により常に存続が危険な状況にある。訪問診療・看護の重要性が高いものの、地勢的に効率的な運営は難しく、遠隔診療の導入が必要である。

地域医療構想で示された区分別病床数では、急性期が過剰、他の病床が不足とされているが、未だ達成されていない状況にある。

「兵庫県保健医療計画（第7次）（圏域版）」平成30年4月

5 圏域の医療提供体制の構築

(1) 但馬圏域地域医療構想

① 必要病床数推計：表13

	2017年(国勢調査)	2025年(国勢調査推計)	差引	基準病床数(2016年(国勢調査)4月)
高度急性期機能病床	24	133	△109	1,474 (一般・療養)
急性期機能病床	881	541	340	
回復期機能病床	193	476	△283	
慢性期機能病床	181	250	△69	
合計	1,279	1,400	△121	1,474

但馬・北庄内 医療概観

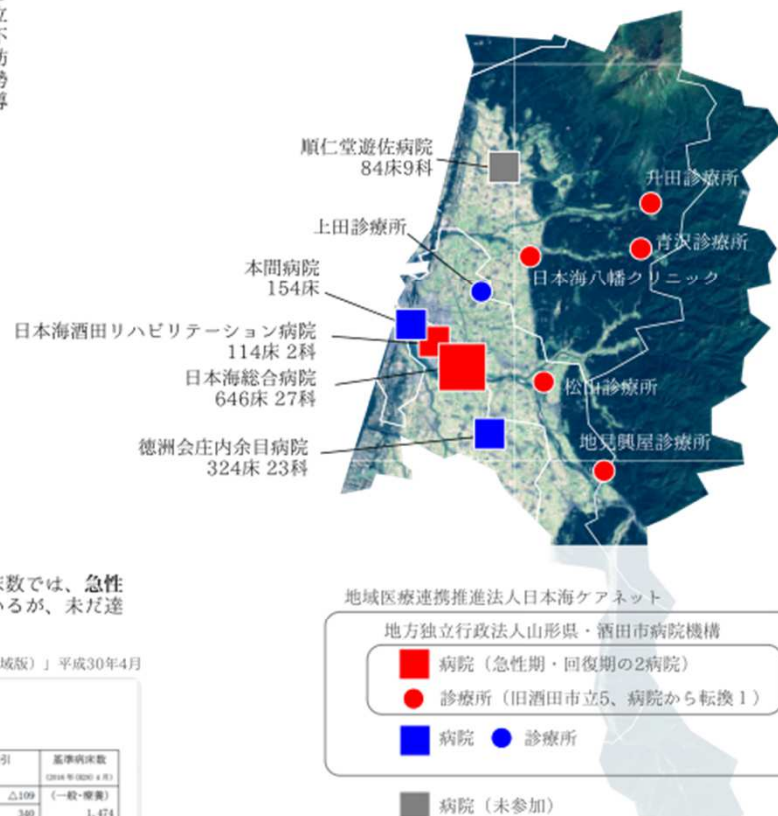
山形県 北庄内地域

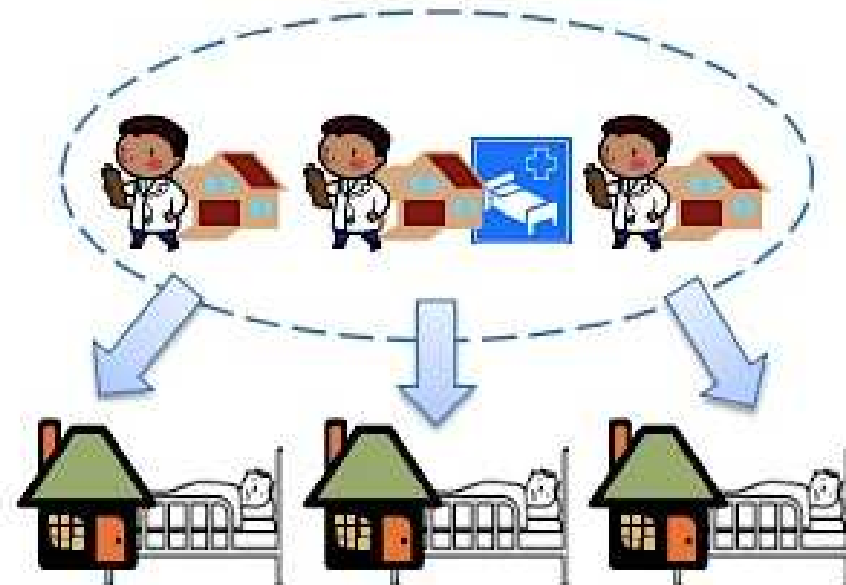
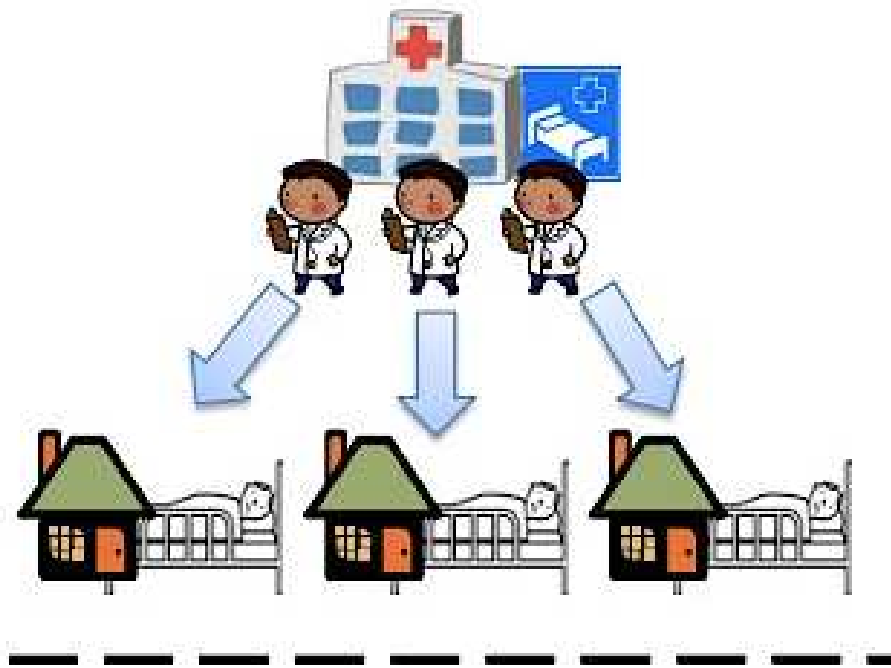
酒田市・遊佐町・庄内町
人口 132,507人 R02.12.01山形県推計

かつては県立病院と市立病院が並立し、消耗戦を強いられていたが、独立行政法人山形県・酒田市病院機構の設置と、これに続く同機構主導の地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」の設置により、北庄内の地域医療はほぼ一元化された。厚生労働省の示す「再検証要請対象医療機関」で指摘された病院は、既に病床再編済みである。
市立診療所も連携法人に統合、更に民間病院・診療所や老人健康保健施設・特別養護老人ホームも参加しており、介護連携も実施。地域情報共有ネットワークも順次整備しつつあるなど、2025年問題に対処するためのモデルケースを構築している。

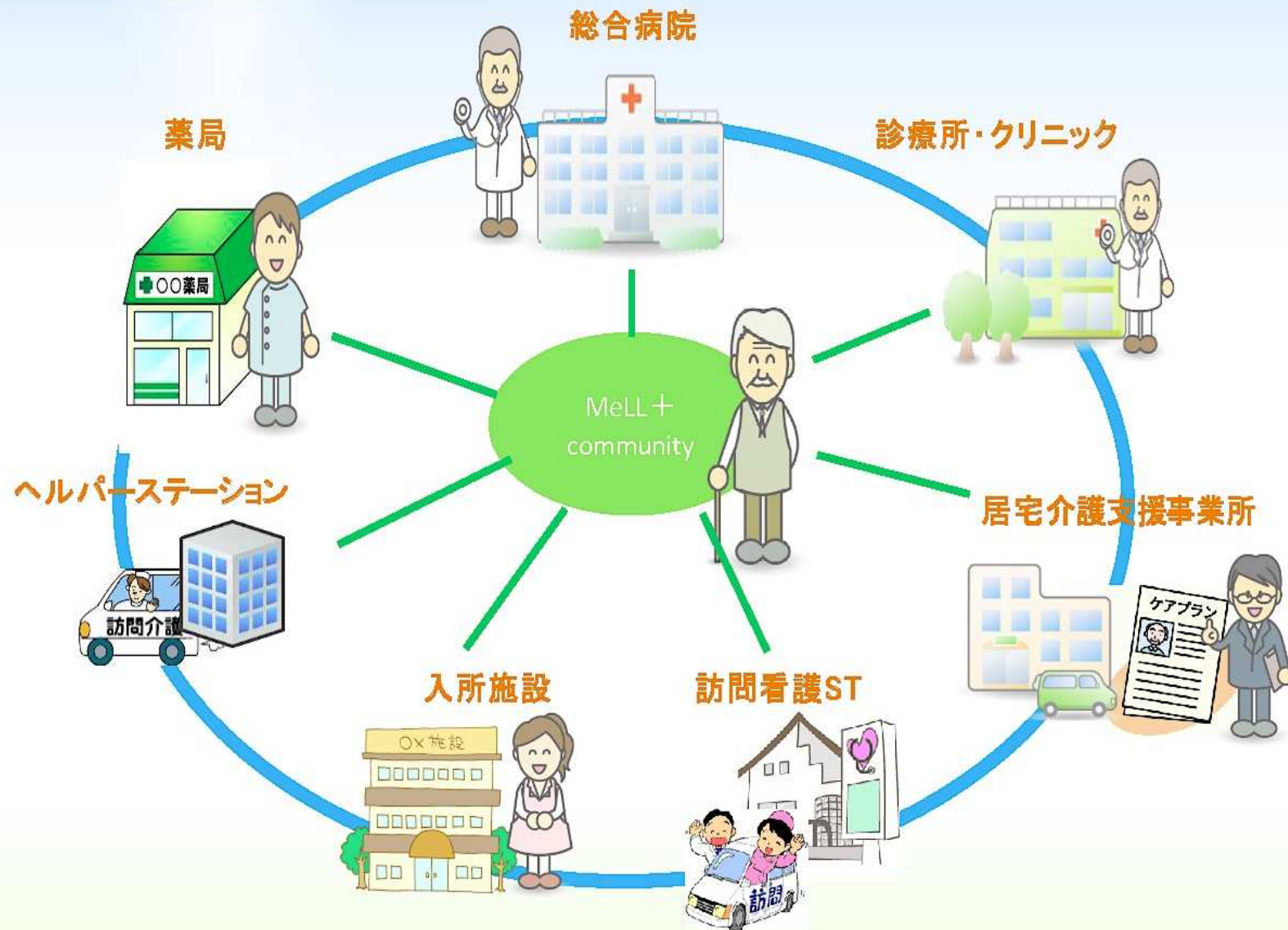


飛鳥診療所





「connect8 連携イメージ」



地域のすべての人が
それぞれの心身状態・ステージに応じて
必要なサービスを適時に受けられる環境を
医療・福祉を担う我々の手で

この地域に生まれ、育ち、暮らし、老い、やがて去っていく
不幸にも病氣や怪我に見舞われ、または体が衰えたとき
誰かが必ず支えてくれる環境を作ります



ひだしフォト

私たちの目指すもの。

その環境を実現するため
但馬全域での医療・福祉を
統合すること

必要なのは、限りある但馬医療・介護資源を適切に活用できる
体制を作ること

医療・福祉に携わる者が互いに助け合い、支え合える
実務上の連携の仕組みはもちろん、それを支える情報共有シス
テムの導入、安心して皆が医療・福祉サービスを受けられる環境
の整備

先進事例に倣い、迅速かつ確実な実現に向けて

但馬の人口減少・高齢化は進展し、地域によっては医療・
介護崩壊が目前に迫っています。これは近い将来、但馬全域
での現実となります。

医療需要は今後8割にまで落ち込み、介護需要は25年間現
状が維持されることがすでに示されています。言い換えられ
ば、今のままの医療では将来継続が困難になり、介護側も体
制の維持が出来なくなるということです。

地域包括ケアの要となる一般診療所の医師の減少、介護
サービスを担う世代が今後不足することが見込まれており、
供給が需要に追いつきません。行政の社会保障財源も逼迫
し、このままでは但馬で安心して暮らし、生涯を閉じること
が出来なくなります。

但馬の人口は、今後30年で半減することが予想されていま
す。「我が町のため」ではなく、「同じ二次医療圏・文化を
共有する但馬」という視点で協力し合うことが必要です。

私たちは、「この地域でこれからもずっと暮らしていく」
ため、医療・介護・福祉・行政等の関係機関が協力に連携
し、医療・福祉の包括かつ継続的な提供体制を構築し、適
切なサービスが切れ目なく効率的に提供される環境を整備す
ることを目的とし、当法人を設立しました。

当法人の趣旨にご賛同いただける方は、この機会にぜひご
入会いただき、事業活動にご支援ご協力賜りますようお願い
申し上げます。



特定非営利活動法人
但馬を結んで育つ会

代表理事 千葉義幸
(ちば内科・脳神経内科クリニック)

法人概要 名称 特定非営利活動法人但馬を結んで育つ会
略称 TMSnet 設立 令和2年3月18日
活動の種類 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
まちづくりの推進を図る活動 他
事業の種類 調査・講習会・セミナー開催
医療、介護の地域包括体制構築 他
会員の種類 正会員（個人・団体）・賛助会員

事務局 〒668-0052 兵庫県豊岡市九日市下町5番1号
ちば内科・脳神経内科クリニック内
TEL (050番号取得中) FAX 0796-22-7771
携帯 090-3892-1878
email tms.net.2020@gmail.com

この地で
これからもずっと
暮らしていくために

いま
医療・福祉に
必要なことを。



入会のご案内



但馬プラン



持続可能な
医療福祉
提供体制の
確立

連携業務
拡大

公立病院等
連携法人
参加

2024年

2023年

2022年

参加拡大
事業開始
2021年

2020年
有志による
NPO設立

Top Down

北庄内モデルの
但馬地域への
移植と展開

Bottom Up

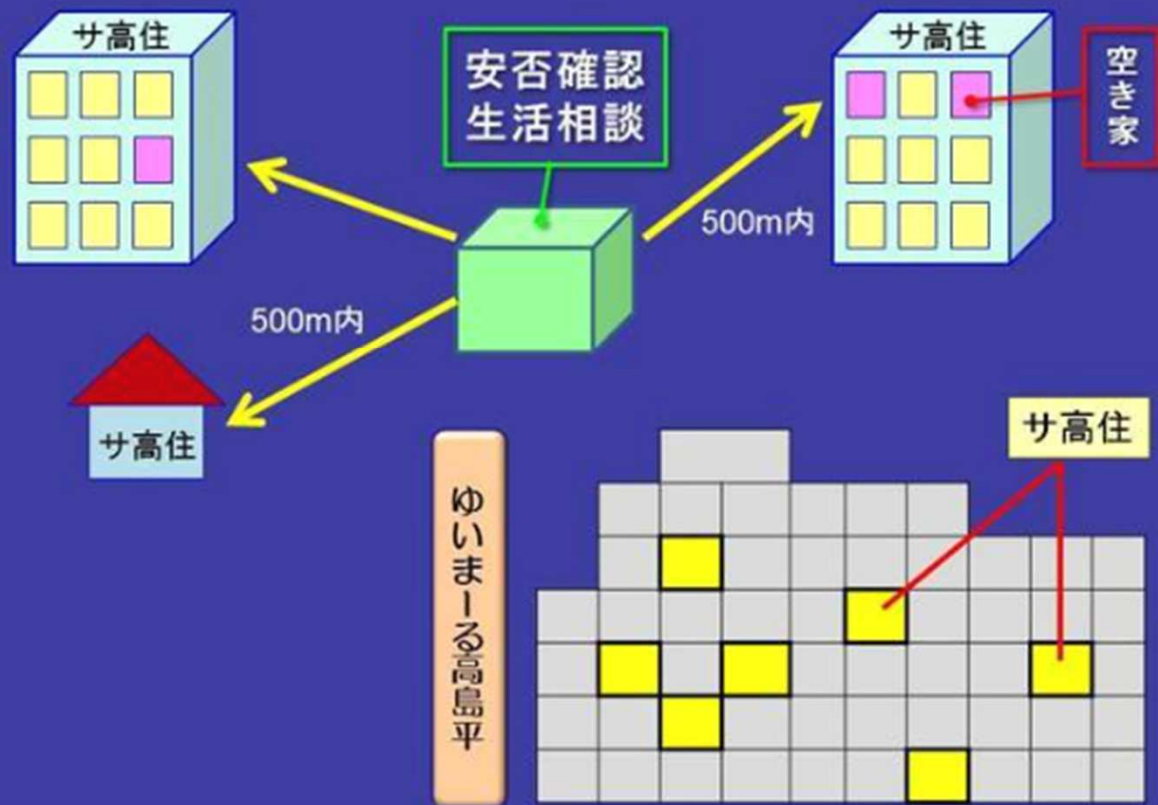
北庄内モデル



小規模多機能型居宅介護 サービス付き高齢者向け住宅、



●分散型サ高住 —— 空き家活用へ



里山

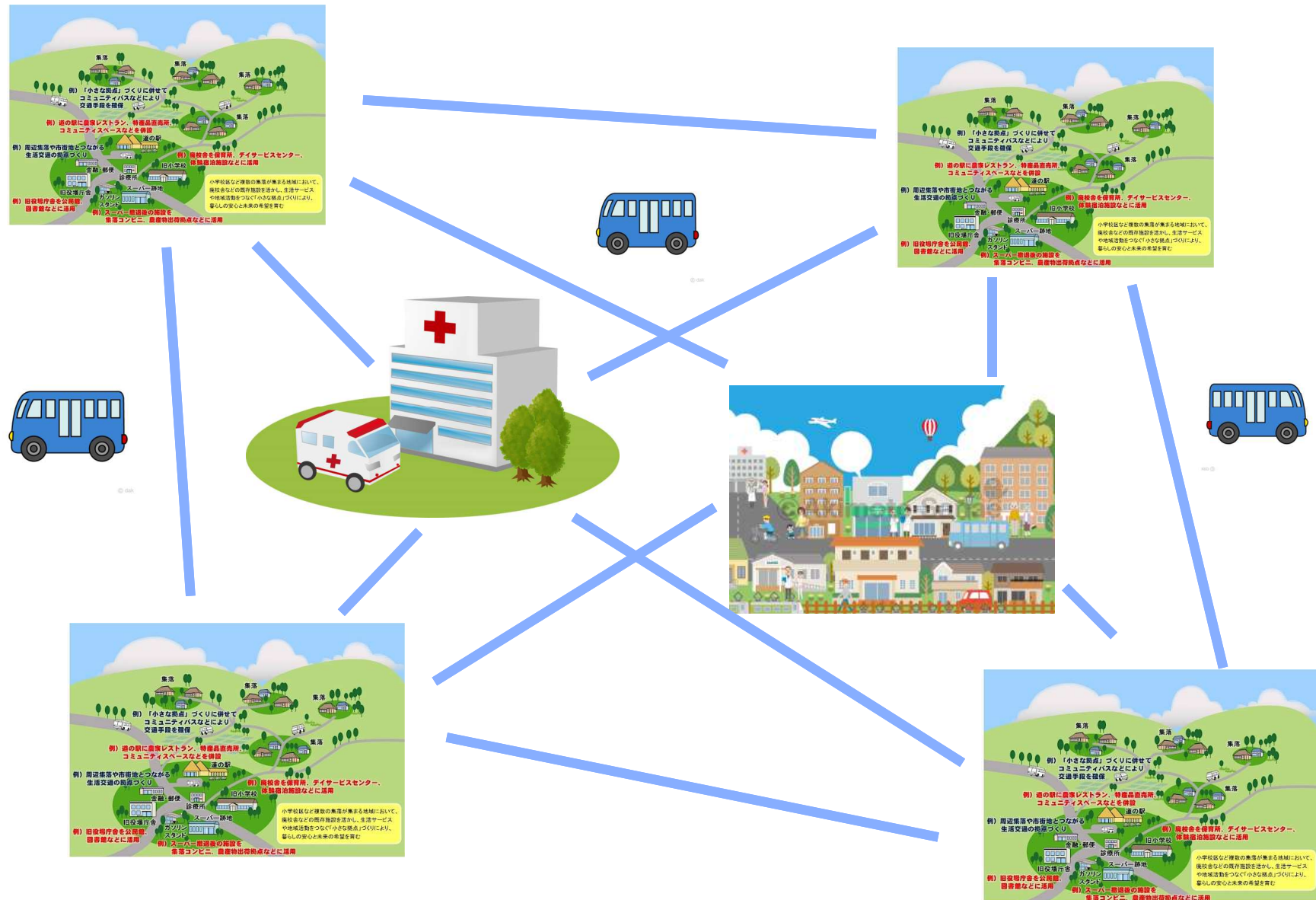


pixta.jp - 22145897

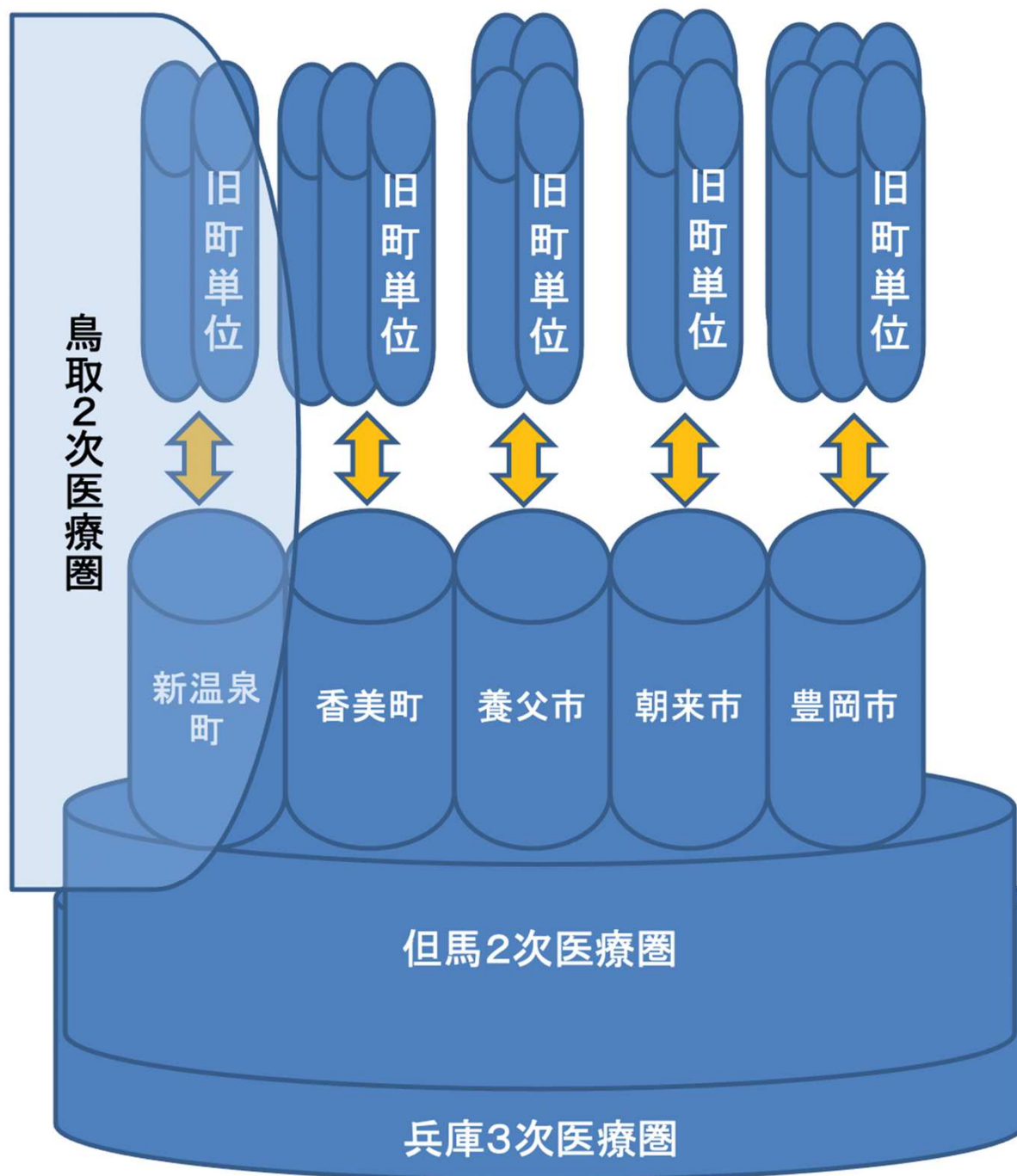


次に目指すのは

小さな拠点間のインフラ整備、急性医療、都市へのアクセスを含めたモビリティの構築



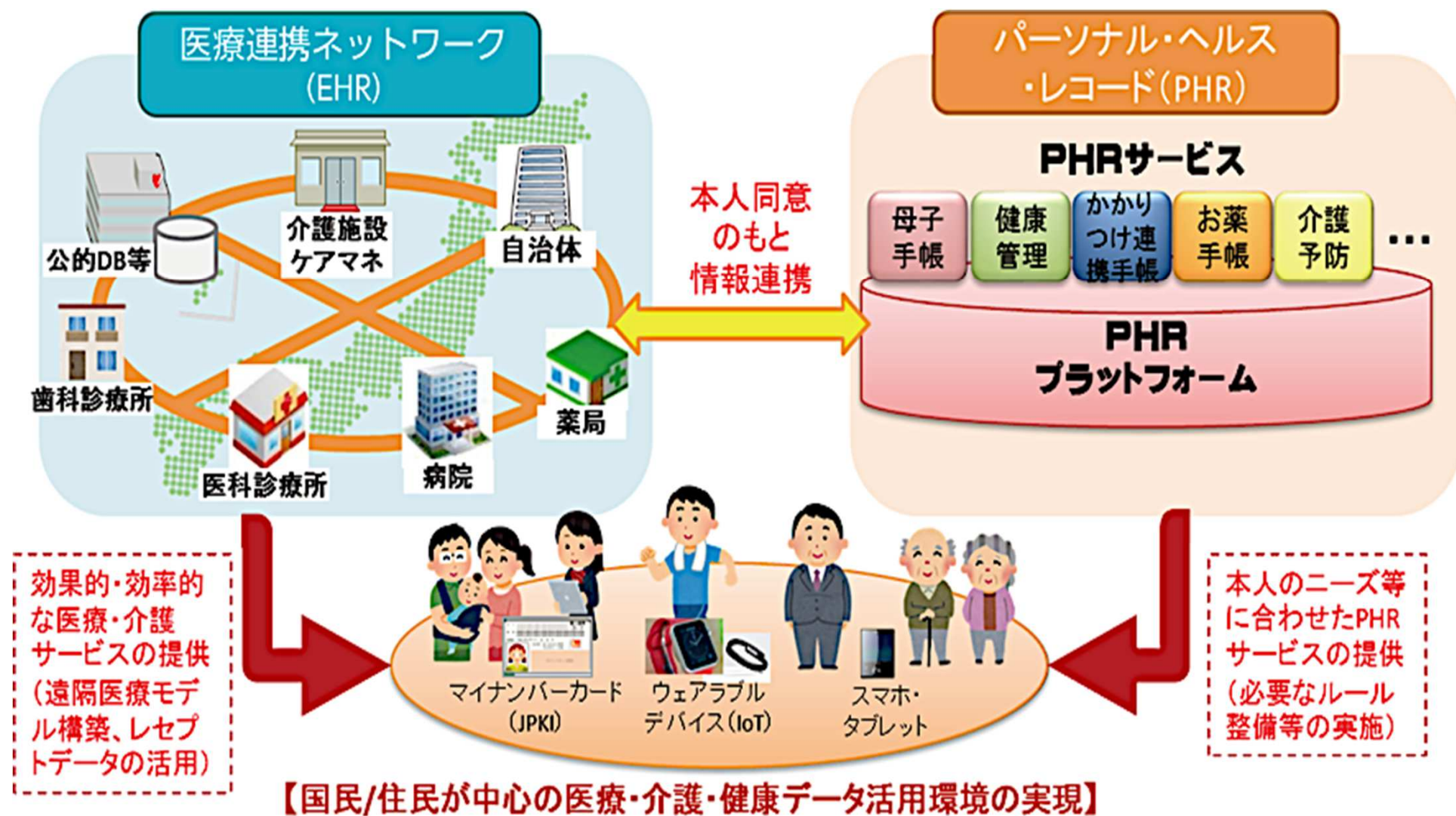
そうすることで自治体の資源の集中、合理的活用が可能になります。



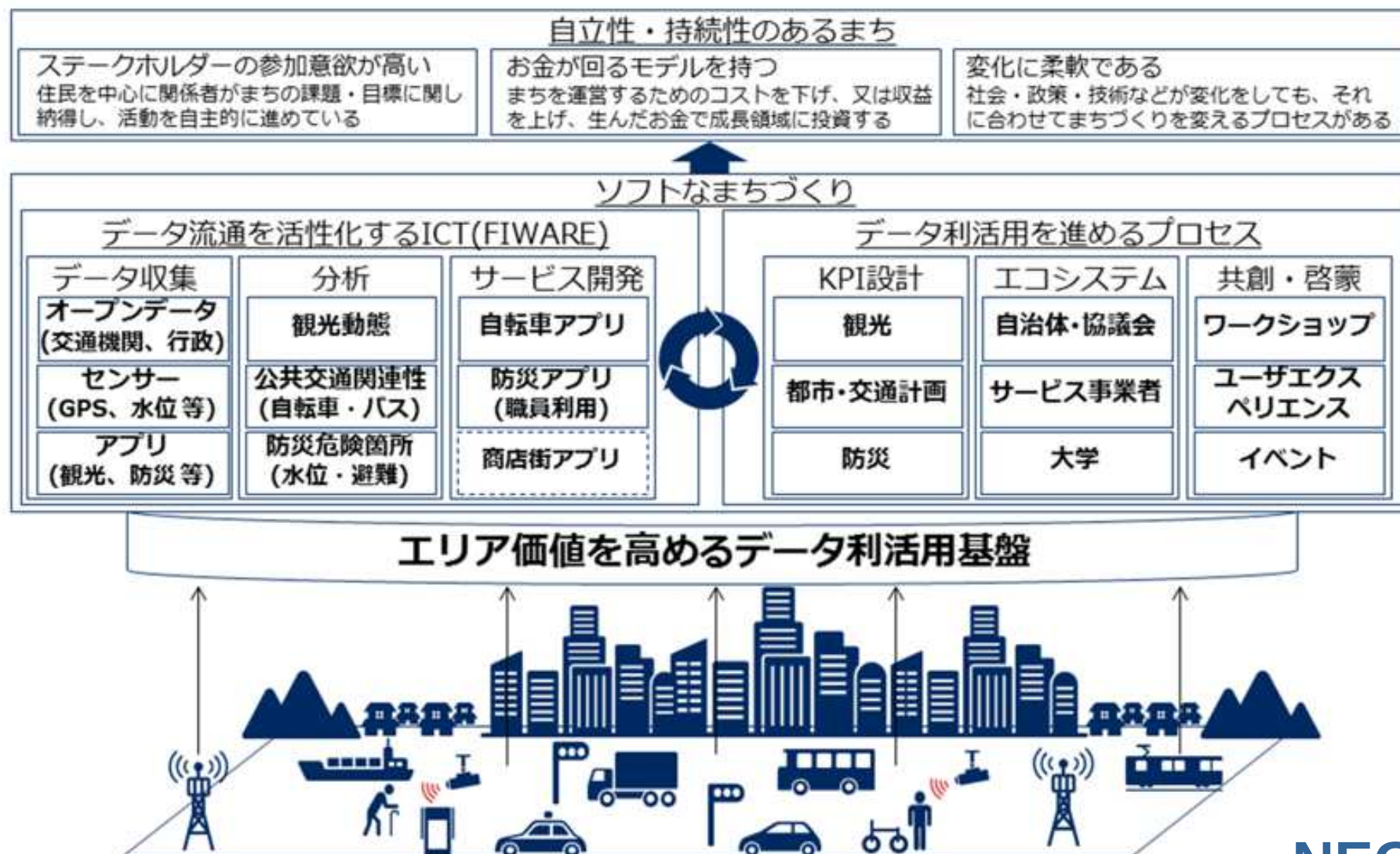
地域で暮らすには「衣食住」よりも
医療福祉と交通の提供が重要
そのために旧町単位で「小さな拠
点」の構築と拠点相互の連携
＝医療介護視点でのまちづくり

各地域における地域包括ケアの機
能維持・向上（病診連携、3師会連
携、調剤情報共有等々）

病院（組合）間の機能・病床再配分
を通じた2次医療圏単位での効率
的効果的なサービス提供とそれによ
る各病院の経営体力の向上



データ流通を活性化するICTとプロセスの 両面のソフトな仕組みにより、自立・持続性のある街を目指す



医療福祉の統合

小さな拠点

EHR(ElectricMedical Record)の確立

街づくり、オープンソース

ハード、ソフトインフラの管理運営

- ・自治体と地元企業による官民一体の運営
 - ・地域生活の今後の継続維持
 - ・社会共通資本へ相互負担
 - ・企業との提携
- (システム、インフラ、物流、他)

行政

防災

農業、漁業、林業

地場産業

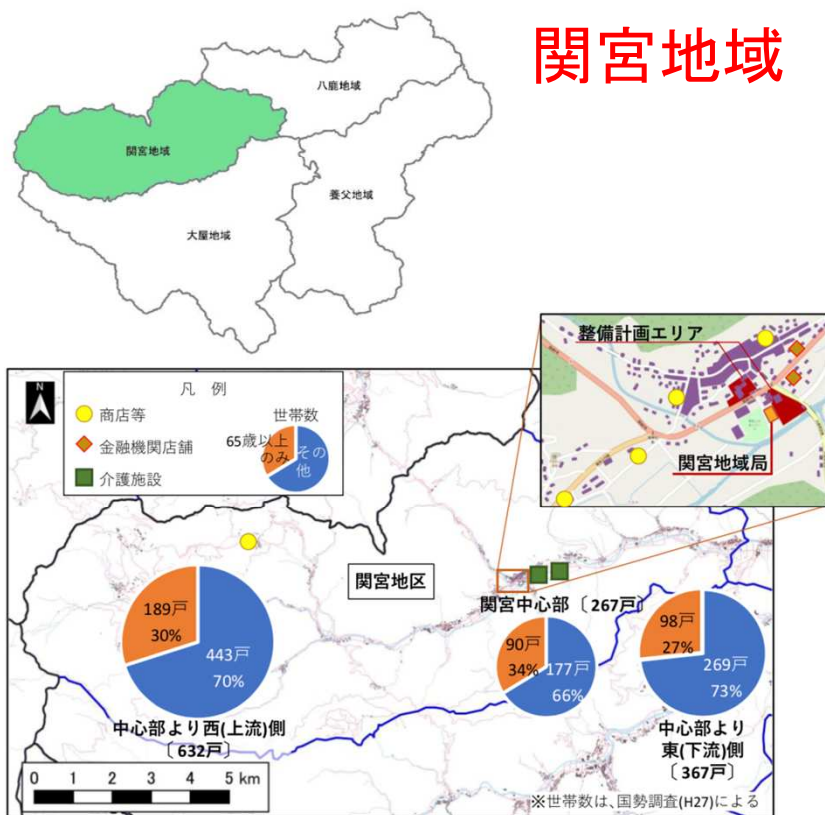
土木

流通

観光

兵庫県養父市

関宮地域



No.	氏 名	役 職	所 属	分 類
1	西村 人	幹事	養父市関宮区長会	自治
2	宮岡 秀司	会長	関宮まちづくり協議会	自治
3	津崎 利久子	会長	関宮文化協会	教育
4	福井 寿徳	所長	福井診療所	医療
5	西谷 博明	支部長	養父市商工会関宮支部	商工
6	宮垣 健生	常務理事 総合企画部	但馬信用金庫 本店	金融
7	小坂 祐司	部長	全但バス株式会社 バス事業部	公共交通
8	中野 穰	施設長	社会福祉法人関寿会	福祉
9	和田 庄治	係長	養父市社会福祉協議会関宮支部	福祉
10	小谷 裕都子	所長	公立八鹿病院南但訪問看護センター	医療
11	柳川 武	次長兼課長	養父市産業環境部商工観光課(商業担当)	行政
12	古家 寛之	課長	養父市まち整備部土地利用未来課(公共交通担当)	行政
13	余根田 一明	課長	養父市健康福祉部保険医療課(医療・福祉担当)	行政
14	田村 亘	課長	養父市経営企画部経営政策課(地方創生担当)	行政
15	小谷 梨奈	主事	養父市市民生活部市民課(関宮地区在住若手職員)	行政
16	城戸 優臣	主事	養父市経営企画部経営総務課(関宮地区在住若手職員)	行政

アドバイザー

1	光多 長温	理事長	公益財団法人 都市化研究公室	都市計画
2	千葉 義幸	所長 (代表)	ちば内科・脳神経内科クリニック (NPO法人但馬を結んで育つ会)	医療

事務局

1	井上 剛	部長	養父市市民生活部	事務局
2	雲田 裕史	部長	養父市市民生活部	事務局
3	田中 貴樹	局長	養父市市民生活部関宮地域局	事務局
4	岩佐 英行	主幹	養父市市民生活部関宮地域局	事務局

コアメンバー

(順不同)



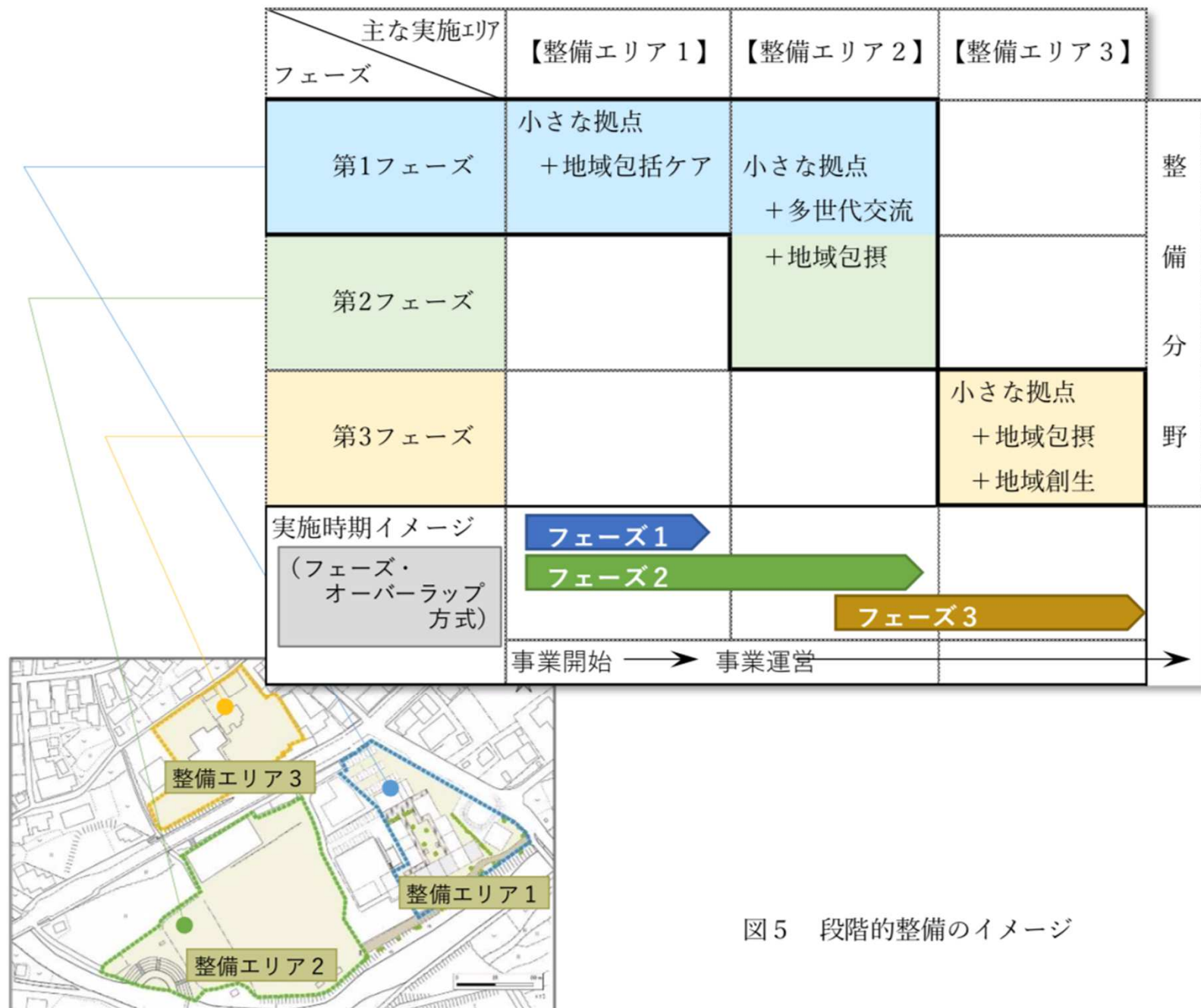


図5 段階的整備のイメージ

※ この図は前述の検討に基づくイメージであり、実際の施工状況を示すものではありません。



	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度
全体計画	策定委員会 答申 整備計画	(養父市対応) ・方針決定 ・予算措置 ・住民説明	第2・第3フェーズ 検討～具体化	
旧庁舎解体		解体		
地盤造成		設計		
高齢者住宅				
地域包括ケア 運営協議会 住宅建設・供用		設立		
		事業者公募 事業概要決定	建設	
公民館別館			建設	

事業スケジュール（案）

ご清聴ありがとうございました。

